

# らじみサラダボール子育て情報



「遊びと学び」

令和6年4月24日号



## 物語る遊びはその後の学びの基礎となる

2歳を過ぎると親子の対話理解が深まり、絵本を見たり、読んだりしてあげると、自分から物語を作り、語ってくれたりします。読み手のお母さんや父さんは、一瞬戸惑って、絵本に書かれたストーリーを伝えようとしたことはありませんか。

子どもは、おもちゃを前にして語りかけたり、一人でつぶやいたりしながら、遊びを楽しむことができる力を持っています。お人形やプラレールを相手に、話しかけたり共感したりしながら、物語を作って遊びを進めてくことができます。しかし、気が散る場所や人通りの多い場所では、集中して物語るのが難しくなり、物語が停滞したり飽きてしまったりします。子どもが遊びをはじめるときには、向き合うおもちゃに語りかけられるように、できるだけ静かにしてあげたり、遊び込むまでの時間を十分取ってあげたりして欲しいと思います。時には、物語を一緒に創り上げて楽しむことも、忘れないでください。

一方で、子どもにとってスマートフォンなどの電子機器での映像視聴は、かなり脳が負担を感じ疲労するものです。それは、映像速度が速くめぐりまわって物語が展開するため、脳が追いつかなくなり、ダメージにもつながると言われています。また、映像視聴は絵本とは違って、自分の意志で止めて考えたり、戻って見直したりすることが子どもにとって難しい側面もあります。気になるページで止めたり戻ったりと、ゆっくりと子ども自身の心を寄せて見ることができる読み聞かせは、多様性や知恵を育むことにつながります。もしも映像を視聴させるときには、長時間続けての視聴は避け、こまめに休息を取り入れるとよいかなと思います。



急速に発達する2歳から6歳は、できれば絵本や屋外での体験的遊びを多く取り入れ、遊びが学びになるよう心がけてみてください。好奇心が興味関心をかき立て、自発的行動が促されて疑問が生まれます。そこから探究心が強まり、やがて自ら学ぶ探求力に変化し、学習意欲を創り出していけるようになっていきます。

【赤いイチゴの実を発見！どのくらい大きくなったかな？】

